

2016（平成 28）年度 福岡女子大学 外国人留学生入試

〔 A 日程試験問題 〕

国際教養学科

小論文

【 60 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は 4 ページから 5 ページにあります。問題は全部で **2 問**です。
- 3 解答用紙には裏にも解答欄があります。
- 4 試験中に問題用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号**を記入してください。
- 6 志願書で選択した言語（日本語または英語）で解答してください。
- 7 試験終了後、**問題冊子は持ち帰ってください**。





問題 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

21世紀はグローバル化の時代。あらゆる分野で諸外国との交流が深まり、政治も経済も一国だけでは完結しない世界の到来です。この流れを押し戻すのはもはや不可能でしょう。ですが、交流が盛んになるのはプラス面ばかりではありません。経済、宗教、文化などの摩擦が増えるほか、一地域の経済の混乱が一気に世界全体に広がるマイナス面もはらんでいます。

グローバル化が国際政治で意識されるようになったのは、1991年に旧ソ連が解体して以後。社会主義経済が資本主義経済に統合されて、ヒト・モノ・カネが自由に世界中を移動できるようになったのです。この動きは加速するでしょう。ヒトは、海外旅行者だけでなく、移民や難民など、国家の枠内に留まらない流れが強まるはずで、モノについては、一つの製品を構成する部品が世界中の地域から寄せ集められ、「××国製」が意味を失うほど多国籍化しています。カネに至っては、電子取引によって貿易額の何十倍の巨額の資金が移動しています。

国際政治は国を単位に動いていますが、もはやこのような激しい移動に追いつけなくなっています。移民の受け入れを決めるのは政府ですから、まだヒトの移動は制限できます。でも日本の高校生が、アメリカやヨーロッパの大学を選び外国で働こうとする流れまでは制限できません。日本の会社であっても、外国の人がトップを務めるのはもはや珍しくありません。

いくら大国でも貿易を勝手に制限したら世界の商売で取り残されます。カネの移動の制限はもっと難しく、ワンクリックで巨額が海外に移送され、また取引額が大きすぎて金融市場に政府が介入するにも限界があります。一国だけでカネの動きを完全に統制することはできません。

歴史を振り返ると、ヒト・モノ・カネの動きの量と領域がともに拡大すると、政治の枠組みも、その拡大にあわせて大きくなる傾向があります。貿易や金融について国際的な機関でルールを決めたりコントロールする仕組みを作ったりするのも、一つ一つの国のレベルでは手に負えなくなるからです。この動きが国連の地位を高めるのか、あるいは遠い将来には世界連邦のような流れになるのか、予測はつきません。しかし多くの国が協力して取り組まなければどうしようもありません。世界の一体化は政治の世界にもいずれは及ぶでしょう。

逆にグローバル化のもとで国のコントロール力が弱まり、さらに多国間の協調にも失敗すれば、もともと無秩序な国際政治がますます混迷する恐れもあります。グローバル化が激しすぎると、主権国家システムとのずれが大きくなり、世界が不安定になるという見方すらあります。

(吉田文和『政治のキホン 100』岩波書店、2014年、198～199頁より 一部表記改変)

**問1** グローバル化のプラス面とマイナス面について、自分の考えを具体的に述べなさい。

**問2** 問1で答えた内容をふまえたうえで、21世紀のグローバル化のあるべき姿について、自分の考えを論じなさい。